

鶴羽根神社 御由緒

御祭神

八幡三神	毘陀和氣命 (応神天皇)	伊弉那伊弉命 (伊弉天皇)	鳥長帯日売命 (神功皇后)
妹背二神	留羽千早	伊弉那伊弉命	伊弉那伊弉命
彦彦神社合祀	(天正二年)	迎賀士神	少彦名神

当社は、建久年間(一九〇・一九一年)に、源三位頼政公(安芸国加茂郡西條郷領主)の三、重禰ノ前が崇州知行せられる折の御遺言によつて、元久年間(二〇四・二〇六年)に社殿を建立し、御祭神を勧請したことが始まりと伝えられています。その際に、修理料として椎木山(現一葉山)を寄進された為、往時は椎木八幡宮と称されてきました。

に依る当時は、広島城から東側・八丁堀以東全ての氏神とされていたと記されています。また、門守二神を奉斎、備来、鎌倉ノ臺町ノ畿國ノ江戸の世、兵乱等によつて興亡を繰返しても、文政五年(一八三二年)頃の記録

天保四年(一八三四年)二月隣地の明皇院鎮園造より出火、社殿等悉く焼焼し、同年四月には仮社殿を建立、御遷座致しましたが、權主より同社城に鎮座神社造営を仰せ出され、同六年四月現在地へ所遷となり(古くは、現鎮座神社一の鳥居との鳥居の間、西側へ御鎮座して)遷野家からの造営資金寄付と氏子中の御請

によつて、安政三年(一八五六年)に再建全て成就致しました。明治元年(一八六八年)朝令の神仏混淆御引分にもとづき、藩主淺野十二代長頼公の撰名により、神社背裏の山形が、鶴羽根を広げた姿に似ている事から、社名を鶴羽根八幡宮と改め、同五年に鶴羽根神社へと改称、

昭和二十年(一九四六年)の原爆投下の大惨事により、社殿一切は倒壊しましたが焼失を免れ、宮司を先導に氏子諸氏の熱意と努力を以つて規模を縮し乍も、いち早く余燼の中から再建されました。一方、石鳥居・石ノ大鼓橋・手水舎・唐獅子・石燈籠は難をのがれ、往年の姿のまま、ご参拝の皆様を静かに温かく迎えています。

永き年月、多くの人々を見守り続けた、鶴羽根豊大神様は平和な人世の出発を祝福する結婚式をはじめ、安産祈願・初宮詣・七五三詣・厄年厄祓等の人生儀礼、家内安全・交通安全・商売繁盛・病氣平癒・合格祈願祭等、万般のことに亘つて大変な御加護があり、またその御神威を受けられ地鎮祭・竣工祭・住宅店舗清成等に於ても、敬拝する人々は夫々にありがたい御神徳を頂いて居ります。

鶴羽根神社 社務所

広島県広島市東区二葉の里一・五・十一
電話(〇八二)二六一・〇一九八

